

### 1. 単元名 『海なし県の海善プロジェクト！～海なし県でも海を救える?!～』

#### 2. 単元の目標

- ・海洋問題について海洋ゴミなどの問題を知り、興味・関心を持つことが出来る。  
(知識・技能)
- ・海がない県から海洋問題を解決することが出来るかということについて身の回りから考え、伝えることが出来る。  
(思考・判断・表現)
- ・自分たちで、あるいはほかの人も巻き込み、協力しながら海洋の問題を解決するための方法を積極的  
考えられている。  
(主体的に学びに向かう力)

#### 3. 単元について

##### (1) 教材観

日本には47の都道府県がある。そのうち海を持たない内陸県なのは、群馬県、栃木県、埼玉県、長野県、山梨県、岐阜県、滋賀県、奈良県の8県である。これらの県では児童たちにとって海が身近ではない。海が身近ではないということは、海の問題について考える機会があまりない、あるいは問題に関心があっても具体的に何をすればいいのかわからない児童が多くいることが予想出来る。しかし、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であるSDGsの14番には「海の豊かさを守ろう」という項目がある。すなわち、この目標についてもほかのSDGsの目標取り組んでいく必要がある。この教材では、内陸県の児童にフォーカスして、海がない県の児童に海に対する意識を向けさせるとともに、自分たちに出来ることはないのか、という意識を持たせ身近なところから行動していくことが大切であるということを学ぶことが出来る。

##### (2) 児童観 (省略)

##### (3) 指導観

本単元ではまず、海洋問題について触れることから始める。その上で、奈良県では海がないということから、子どもたちに海がない場所では海のことを考えなくても大丈夫かどうか問いかける。そのうえで、100年後の寿司を予想させ、100年後はほとんどの寿司のネタがなくなっているという事実に出合わせる。次に、なぜ、そのようなことが起こるのかということについて考えさせ、それ以外の身近な問題（漁業の人たちの仕事や、寿司のチェーン店、海外からくる外国人の人々が来なくなるなど）についても目を向けさせて危機感を抱いてもらう。ここから、海がない県であろうが海について考えないと身近な生活にも影響がたくさん出てくることに気づいてもらう。

次に、海を守るために自分たちが出来ることを考えさせるが、環境にやさしい生活として、マイボトルや節電、節水、ごみの分別など言ってしまうとあたりきり意見が出てきたところで、再度子供たちに本当にこれらの活動で海が守れるのか、自分たちの活動は十分なのかを問いかける。子供たちが、自分たちの活動で本当に十分なのか考えだしたタイミングで、実際に海がある県ではどのようにしているのかを見学する。今回は和歌山県の「海と日本 project」の方々のお話を聞く。児童は事前に

概要や自分が聞きたい質問についてまとめる事前学習を行う。そして、事前学習を踏まえて実際に社会見学を行う。活動を知るだけでなく、活動している人々の思いに触れ、児童自ら活動に参加する。

次に社会見学で学んだことを共有しながら、自分たちが出来ることを考えてもらう。ここでは、海がなくても人々の思いを伝えることは出来る、や自分でボランティアに参加するなどなにかしらしつかりとした行動を起こすような意見が出ることを目指す。ある程度意見が出たら、具体的に海がない奈良からはどのような行動が出来るのかというところで、佐保川を例に挙げる。佐保川は大阪湾にそそぐ大和川の支川の1つであり、佐保川と海はつながっており、佐保川をきれいにすることが海をきれいにするための1つの方法であることに気づかせる。

これらの活動を踏まえて、実際に行動してみる、今回は佐保川に実際に清掃活動に行く。活動前の様子（ゴミや、川の水質など）をあらかじめ子供たち、教師が記録しておく。活動終了後、どれくらいの成果が出たかを確認できるようにする。

最後に、自分たちが取り組んで終わりでいいのかということを再度子供たちに問いかける。自分たちで行ったことをほかの人にも伝えて、広めていくために発表会を設ける。それに向けての準備を行う。

#### (4) .ESD の観点

##### ・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

###### 連携性（力合わせて）

海を守るためには様々なところで頑張っている取り組みがあり、自分たちもそのような人々と協力しながら活動に取り組んでいくことが大切であるということを学んでもらう。

###### 責任性（責任を持って）

自分たちは海がないから大丈夫である、という考え方ではなく、自分たちの身の回りでも問題が起きることを知り、近くの川を汚してしまうとそれが海の汚れにつながってしまう危険性を考え、一人ひとりが責任をもって行動できるようになる。

##### ・本学習で育てたい ESD の資質・能力

###### 他者と協力する力

海を守るためにクラスのメンバーだけでなく、他の学年、あるいは地域の人々全員で協力して、活動を展開していくことで養っていく力。

###### 進んで参加する態度

この活動を通して、日ごろの自分たちの行動を見直し、自分の役割を踏まえた上で、海や川の清掃活動に自主的・主体的に参加しようとすることを目指す。

##### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

###### 世代間の公正

自然環境、生態系の保全の重視。（生物多様性の重視）

##### ・達成が期待される SDGs

###### SDGs14 海の豊かさを守ろう

→海洋の問題に取り組んで自分たちで解決に向けて努力する。

## SDGs15 陸の豊かさを守ろう

→海の問題だけではなく、海は山ともつながっているため、山の保全についても考えることが出来る。

### 3. 評価規準

1.知識・技能	2.思考・判断・表現	3.主体的に学習に取り組む態度
<p>①海洋問題について理解している。</p> <p>②海と川はつながっており、川の保全が海の保全にもつながるということを理解している。</p>	<p>①どうすれば、海がない県から海洋問題を解決することが出来るかということについて考え、伝えることが出来る。</p> <p>②自分たちの身の回りでのどのような問題が生じるか考えることが出来る。</p>	<p>①自分たちで、あるいはほかの人も巻き込んで海洋の問題を解決するための方法を考えられている。</p> <p>②海や川の清掃活動やグループ活動に積極的に取り組んでいる。また、それらで生じた疑問についても考えようとしている。</p>

### 5. 単元計画（全 19 時間 社会 8 時間 総合 11 時間）

時	主な学習活動と内容	指導上の留意点	評価
1.	<p>○海の問題について知る【知る】</p> <p>1.現在の寿司の写真を見せて 100 年後の寿司を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100 年後にはほとんどの寿司が食べられなくなることを知る。</li> <li>・なぜ、寿司が食べられなくなるのかを考える。</li> </ul> <p>2. 寿司が食べられなくなるかもしれないこと以外の問題はないのか考える。</p> <p>3.海がない県であろうが海について考えないと身近な生活にも影響がたくさん出てくることを知る。</p>	<p>好きな寿司について児童に聞いていく。</p> <p>なんとなくではなく、しっかりと理由まで考えさせられることを目指す。</p>	1-①
2	<p>1.海洋の問題について知る。</p> <p>(マイクロプラスチック、海洋ごみ</p>	<p>海洋ごみ問題に関する写真 (ウミガメがレジ袋を食べ</p>	2-②

	<p>など様々な問題があることを知る。) )</p> <p>2.奈良県は海がないが海のことを考える必要はあるのかを確認する。</p>	<p>ている写真やプラスチックごみに絡まっている生き物の写真)を見せて、事態の深刻さに気付かせる。</p>	
3	<p>○海を守るために出来ることを考える</p> <p>【考える】</p> <p>1.海を守るために自分たちに出来ることは何か考える。</p>		<p>2-①</p> <p>3-①</p>
	<p>2.本当にこれらの活動で海が守れるのか、自分たちの活動は十分なのかどうか考え直す。</p>	<p>机間巡視をしながら考えが出ない児童には声かけして、少しヒントを与える。 (プラスチック製品が問題になっているけど身近なところで使われているのって何かあるのかな?) など</p> <p>考えを否定する問いかけではなく、児童が出した意見を肯定しながら問いかけるようにする。</p>	
4	<p>・実際にヒントを探しに、海を守る活動をしている団体の話を聞くための事前学習に取り組む。(団体の概要や、自分が聞きたいことについてまとめる)</p>	<p>調べ学習になるため、タブレット端末等活用させる。その際に授業に関係のないことを調べないように可能な限り机間巡視を行い確認する。</p>	3-②
5 - 10	<p>(社会見学) 【考え直す】</p> <p>・和歌山県に行き、「海と日本 project」の方々の話を実際に聞く。</p>		3-①
11	<p>1.社会見学での感想を共有する。</p> <p>2.自分たちが出来ることを考える。</p> <p>3.大和川の支川である佐保川を例に川</p>	<p>机間巡視をしながら考えが出ない児童には声かけして、少しヒントを与える。 どの意見も正解がないことを伝えて活発に色々な意見</p>	<p>1-②</p> <p>2-①</p>

	と海はつながっており、川をきれいにする ことので海 <small>の</small> きれいさも改善される ことを知る。また、川をさらにたどる と山にもつながり、山をきれいにする ことでも海 <small>の</small> きれいさが保全されること を知る	が出るようにさせる。  小学校の4年生の理科で海 と川について扱っているため、その復習を行 いながら考えさせるさらに、山とも つながっていることを押さえさせる。 (森林と私たちの暮らし)	
12 - 14	<b>【行動する】</b> 実際に佐保川に行き清掃活動を行う。		3-②  2-① 3-①
15 - 17	○自分たちが取り組んで終わりで海は 守れるのか？ →家族や地域の人たちにも伝えていか なければならない！ ・自分たちが伝えてきたことをポス ターや映像などにしてまとめる。 (どのようなことをしてきたのか、そ の活動から何を学んだのかというこ とについて話し合いながら作成して いく。)	児童が行ってきたものを認めながらも、 これを誰かに伝えてあげていかないと もったいないということに気づかせ る。 子どもたちの中で話しあい、グルー プでポスターを作成する、動画を作 るなどして成果物を作り、それを用 いて伝えさせる。	2-①
18-19	<b>【考えなおし行動し伝える】</b> ・地域の人や学校のほかの学年向け ての発表準備 ・実際の発表 <b>【行動し伝える】</b>	地域でのふれあいフェスティバル などにも参加して呼びかけるよう にする。	

(参考文献)

- ・海と日本プロジェクト in 和歌山県

URL:<https://wakayama.uminohi.jp/>

- ・山から海へと繋がる水のバトン【奈良県 天川村編】

URL:<https://umi-kaido.com/west21>

- ・文部科学省【持続可能な開発のための教育 (ESD : Education for Sustainable Development)】

URL:<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>